

I・1・1 地図の発達・・・(教) pp. 330- (地) p. 144

a 地図の歴史←世界観・地球観に影響される・・・円盤説・球体説など

古代

( ) の地図・・・円盤説  
・・・前700-500 バビロンを中心に  
ティグリス・ユーフラテス、ペルシア湾

ギリシア

・・・数学者ピタゴラス・哲学者アリストテレス 球体説

( ) ・・・子午線の長さを測定、経緯線入り地図を作成

ローマ

( ) (トレミー) の地図、経緯線入り地図 (扇型)

中世

イスラム イドリーシーの地図・・・上は南、球体説

イブン・バトゥータ『三大陸周遊記』

西洋 ( ) マップ 中心 ( ) ・・・円盤説に後退

中世末 ( ) 海図・・・方位線入り、中国から\_\_\_\_\_

が伝わる

近世・・・\_\_\_\_\_ 説の復活←科学の発達

( ) の地図・・・西に行くと黄金の国ジパング (\_\_\_\_\_ ・ \_\_\_\_\_)

→ ( ) に影響しアメリカ大陸の「発見」

→マルチン・ベハイムの地球儀

( ) ・・・正角円筒図法 正角 直線は等角コースで航海用に  
ただし最短コースでない

日本

( ) 図・・・日本最古とされる 奈良時代の僧 主観的地図

( ) ・・・『大日本沿海輿地全図』 沿岸部を実測

b 現代の地図

\_\_\_\_\_ 測量

スネリウス・・・1591-1626 スネルとも、オランダの数学者、三角測量を  
考案

ピカール・・・パリ付近の測量

カッシーニ・・・フランスを測量

→今は ( ) 写真測量も

## 衛星の利用

( ) (遠隔探査、可視光線や赤外線による)

### G N S S 全地球衛星測位システム・・

( ) (米・全地球測位システム) や

( ) (日本・誤差 6 cm を目指す)

## コンピュータの利用

( ) (地理情報システム)・・コンピュータの地図上でデータを  
表示し、分析・判断に役立てる→研究・商業利用